

# 嵐の夜

小川未明

青空文庫



父さんは海へ、母さんは山へ、あきびより 秋日和の麗わしい日に働きに出掛けて、後には今年八歳になる女の子が留守居をしていました。

もとより貧しい家で、山の麓ふもとの小高い所に建っている一軒家で、三毛猫のまりと遊んで父さんや、母さんの帰るのを楽しみに遊んでいました。見渡す限り畑はたや圃はたけは黄金色に色づいて、家の裏表に植うわつている柿や、栗の樹の葉は黄色になって、ひらひらと秋風に揺れています。うす雲の間から、洩もれる弱い日影は、藁葺屋根わらぶきやねの上に照って、静かな、長閑のどかな天気でありました。やがて大暴風雨おおあらしのする模様などは見えませんでした。栗林には人の声が聞えて、山雀やまがらを捕りに来たのでありましょう、鳥籠とりかごに山雀が二羽も三羽も入ってばたばたするのを下げながらもち竿を片手に持って、二三人の男の子が口笛を鳴らしながら、がさがさと落葉を踏んであちらへ行きました。またあちらの松林には茸狩たけがりの男女ひとが、白地の手拭てぬぐいを被ひつて、話し合いながらその姿が見えたり、隠れたりしています。また遙か田圃たんぼの方では、鎌の打ち振るたびにちらちらと光って、早稲わせを刈っている百姓の影も見えます。少女おとめは紫色に鉄漿かねを染めた栗の実や赤く色づいた柿の実を筥むしろの上に乱して、まりとしよに何心地なく遊んでいます。

少女の名はかねと云いました。母さんや、父さんの帰るを待っているものであります。午<sup>ひ</sup>後の<sup>るすぎ</sup>天気は、そよそよと萩や、柿の葉を鳴らす風の少しあるばかりで、日本晴れのした<sup>るすぎ</sup>好い日和でありました。

少女はもはや遊びに飽きてまりを抱いて、裏庭から細道を辿りながら、二三町も行きま<sup>す</sup>すと藪<sup>やぶ</sup>になっていて、土手の両方には櫛<sup>しきみ</sup>の赤い実が鈴<sup>すずなり</sup>生<sup>なり</sup>になっている、萱<sup>かや</sup>の繁<sup>かや</sup>つて、白い尾花<sup>そよ</sup>の戦<sup>そよ</sup>いでいるだらだら坂になりますが、そのだらだら坂を下りますと、すぐ前に青々として目の醒めそうな日本海の波は、ど、どん、どどんと足<sup>あしもと</sup>許<sup>もと</sup>まで、打ち寄せる浜辺に出るのであります。少女は三毛を抱いて、海辺へ来ました。でうろついてやがて獵師の沢山に住んでいる村に着きますと自分の顔を知つて、真黒く日に焼けた男がこつちを見て笑っています。少女は殆<sup>ほと</sup>んど毎日のようにこの辺<sup>あたり</sup>まで遊びに来るのであります。低い、小さな破れた家が幾軒となく並んでいて前には沙<sup>すな</sup>の上に鱒<sup>ます</sup>や、鯖<sup>さば</sup>や、その他いろいろの小魚を乾しているのです。まりは魚臭い匂いを嗅ぎつけて、しきりに鼻をひくひくやつて、にやあにやあと鳴きだしました。けれど少女は「まりや降<sup>おん</sup>りしてはいけな<sup>すな</sup>いよ。」といつて、しつかと抱き締めて、さつさと広々とした沙<sup>すな</sup>原<sup>はら</sup>の方へ切れた草履<sup>ぞうり</sup>をひきずつて、歩んで行きかけますと、遠くの沖の方を往來<sup>ゆきき</sup>します白帆の影が見えます。

足許まで、打ち寄せる雄波おなみ、雌波めなみは、「かねちゃん、かねちゃん、やー。」と喋りながら、かたわらに笑いさざめく。真青な空！ 真青な海！ 白い鷗かもめがふわふわと飛んでいる。ああ、はればれとしたお天気で気持ちいいこと。かねちゃんは、涼しい眸めを見張って、父さんの、今朝出て行きました、沖の方を眺めていました。

「ああ、父さんが恋しいことよ。」と、ほろりとして涙が頬を伝ったのであります。ひたと破れた衣の裾を吹く、沖の風は身に浸みて寒い。小猫は懐ふところ裡らに抱かれたままで、ごろごろうなっています。

かねちゃんが、家へ帰っても、まだ母さんは帰って来ませんでした。柿の木の下に、敷いた筵むしろの上は、栗の林に遮さかられて、今は日の光りも蔭かげつて、木の葉や、草の葉の上に風がさわさわと鳴り、にわかに、いつの間にもやうやう大空に白雲がちらばったのであります。その内に天地は暗くなって、風が烈しくなつて、栗の樹や、柿の木や、松林に鳴る音高く、萩の枝などは、もまれにもまれて、見渡すかぎり田畑は一面に白っぽく、稲や、芋の葉のひらひらとなびくのであります。

かねちゃんは、小窓の内から外の方を見て、母さんが帰って来ないかと見ていますと、木の葉が空に吹かれて、舞い上つてはちらちらと降るように落ちるのであります。

そのうちに雨も加わって、木の枝の折れる音やら、海の波の音がごうごうと吼えるように、今にも自分の家が吹き飛ばされそうになりました。かねちゃんは、

「父さん、父さん早く帰って来て頂戴よ——くしんくしん。」……と泣き出しました。すると雨風に打たれて、圃の細道を走って、濡鼠ぬれねずみのようになって入って来たのは母親であります。

「かねちゃんかねちゃん今帰って来てよ。」

と、表戸を開けますと颯と風が中に吹き込んで、木の葉が座敷の中まで飛び込みました。「まあ、ひどい風なことねえ。」といって、泣いているかねちゃんを自分の傍に引き寄せ、あかし妻の身体は濡れていてよ、と温かい唇をかねちゃんの薔薇色の頬ほっぺた辺にあてて、

「お父さんはどうしたでしょう……妾浜まで行って見て来るから従順おとなしうしておいでよ、よ、じきにね、ばんがた晩方までには帰って来るから。……さあさあ、泣かんで、お留守居たよりしておくれよ。ああ、心配でならないこと。沖はどないに荒れているか……浜へ行ったら消息があるかもしれない。……父さんを、かねちゃん……かねちゃん、見に行つて来てよ。」

泣くかねちゃんを家に残して、母さんは、またも雨風の中に駆け出しました。

破れた小窓の障子をブーム、ブームと風が鳴らして、夜はぼったりと暮れてしまいましたけれど、母さんも、父さんも帰つて来ません……かねちゃん、暗がりのまんまで、懐裡にはなにも知らずに眠っているまりを抱いたまましくしくと泣きあかしています。ただ物凄い風の音と、木の葉がぱらぱらと窓や、壁板したみに当つて散り敷く音を聞くばかりで、誰とて自分の家を訪ねて呉れるものがありません。かねちゃんは、泣きあぐんで、少し気がつかれて、火もない囲炉裏いろりの傍で、まりの温かいむくむくとした毛の中に可愛らしい頬を埋めて、居眠りをしたのであります。

その時、誰やら、ことごとと戸を叩くものがありました。かねちゃんは知らずに眠ねています。またことごとと叩くものがあります。かねちゃんはやつと眼を醒ましますと、一人の白い髭ひげのあるお爺さんじいが、目の前に提燈ちようちんを点けて入つて来ました。そして黙つて、手招ぎしますもんですから、かねちゃんは猫を抱いたままで、お爺さんの傍へ怖る怖る参りますとお爺さんは、柔和にこやかに笑顔を見せて、黙つて、手招ぎして来い来いと言うのであります。かねちゃんはいつしか、お爺さんに連れられてちようど夢心地で、歩いていきますと、いつのまにやら海辺へ来たと見えて、波の音がどんどんと岸を打つのが暗やみのうちに聞かれました。

かねちゃんはお爺さんの後あとについて余程歩いたかと思う時分に、だんだんお爺さんの歩みが早くなつたようで、かねちゃんは一生懸命に追い付こうと思つて駆け出しましたけれどだんだん遠く遠くなつて、提燈あかりの火が小さくなるばかりであります。もはや堪こたえきれなくなつて、泣き出そうとしました時、お爺さんの身の辺まわりから鬼火のようなものが、とろとろと燃え上りましたかと思うと、もはや消えて真暗まっくらやみになつて、身体がだるくなつて、とうとう眠てしまいました。

あくる日の朝、目をぱちりあけて見ますと、破こわれた船の中に自分は眠ていて、まりも枕まくら頭しもとでごろごろごろついています。その傍に父さんも母さんも無事で、自分の方を見て、今お起きかと目元で笑つていなさる。真蒼まっさおな海には、白帆の影が見えて、薔薇色の朝日が見事に昇つて、沖の方が輝いています。



# 青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選 小川未明集 幽霊船」ちくま文庫、筑摩書房

2008（平成20）年8月10日第1刷発行

2010（平成22）年5月25日第2刷発行

底本の親本：「小川未明作品集 第2巻」大日本雄弁会講談社

1954（昭和29）年

初出：「宗教界」

1906（明治39）年11月号

入力：門田裕志

校正：坂本真一

2016年6月10日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 嵐の夜

小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>